

会 報

No.82 (2005年11月)

目 次

- ◆ 日本分子生物学会 2004 年度会計収支決算報告 1
- ◆ 2004 年度会計監査報告 2
- ◆ 第 28 回 (2005 年) 日本分子生物学会年会のお知らせ (その 3) 2
- ◆ 第 28 回総会のご案内 6
- ◆ 日本分子生物学会三菱化学奨励賞授賞式および受賞講演のご案内 6
- ◆ 第 20 回国際生化学・分子生物学会議のご案内 7
- ◆ 学術賞、研究助成の本学会推薦について 17
- ◆ 男女共同参画委員会活動報告 17
- ◆ 各種学術集会、シンポジウム、講演会等のお知らせ 20
 - 千里ライフサイエンスセミナー「老化」 20
 - 第 12 回日本時間生物学会学術大会 21
 - 第 27 回宇宙ステーション利用計画ワークショップ 21
 - 愛知県心身障害者コロニー発達障害研究所公開シンポジウム 2005
「G 蛋白質シグナルによる神経機能制御」 22
 - 第 14 回武田科学振興財団生命科学シンポジウム開催のご案内 22
- ◆ その他 24
 - 第 4 回「万有薬剤学奨励賞」候補者募集要項 24
 - 平成 18 年度に委託する研究開発課題の募集要項 (畜産技術協会) 24

日 本 分 子 生 物 学 会

(THE MOLECULAR BIOLOGY SOCIETY OF JAPAN)

URL : <http://wwwsoc.nii.ac.jp/mbsj/>

入退会、住所変更等については、会員係までご連絡下さるようお願いいたします。

〒 113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14 1st ジェネシスビル 5F
(株) メディ・イシュ内
日本分子生物学会事務局
TEL: 03-5805-1901 FAX: 03-5805-1092
E-mail : bunshi@medissue.co.jp

【日本分子生物学会入会申込先】

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/mbsj/membership1.html>

【年会に関する問合せ先】

第 28 回日本分子生物学会年会事務局

〒 532-0003 大阪市淀川区宮原 4-4-63 新大阪千代田ビル別館 9 階
TEL: 06-6350-7247 FAX: 06-6350-7248
E-mail : mbsj2005@aeplan.co.jp

◆日本分子生物学会 2004 年度会計収支決算報告

2004 年度学会会計収支決算は以下の通りになりましたのでご報告いたします。

(第 13 期 会計幹事 杉本亜沙子)

2004 年度日本分子生物学会収支決算報告書

(2004 年 4 月 1 日 ~ 2005 年 3 月 31 日)

収入の部

単位：円

科 目	予算額	決算額	備 考
学 会 費	52,940,000	51,340,275	正会員会費： <u>37,176,075 円</u> (2004：4500 円 × 7940 名、他：1,446,075 円)
賛 助 会 費	1,440,000	1,440,000	学生会員会費： <u>11,477,500 円</u> (2004：3000 円 × 3533 名、他：878,500 円)
広 告 収 入	2,000,000	1,749,300	海外会員会費： <u>704,700 円</u>
預 金 利 子	30,000	8,006	入会金 (1982 名分)： <u>1,982,000 円</u>
国際誌購読謝礼金	1,900,000	1,742,462	
雑 収 入	50,000	85,400	
寄 付 金 収 入	1,300,000	9,300,000	三菱化学より 130 万円 (奨励賞に充当)
収 入 小 計	59,660,000	65,665,443	
前 年 度 繰 越 金	33,745,270	33,745,270	
合 計	93,405,270	99,410,713	

支出の部

科 目	予算額	決算額	備考
事 業 費	27,050,000	26,313,470	
会報発行	3,200,000	3,221,770	
年会補助金	5,000,000	5,000,000	
春季シンポジウム補助金	7,000,000	7,000,000	
国際誌発行支援金	5,900,000	6,290,000	
オンラインアクセス費用	4,400,000	4,356,500	ブラックウエル社支払い (フリーアクセス料 100 万円含む)
国際誌購読関係費	750,000	435,750	
ホームページ関係費	300,000	9,450	
事業費予備費	500,000	0	
評 議 委 員 会 費	7,500,000	6,660,377	
委員会費	1,000,000	522,921	
選挙・名簿作成費	6,500,000	6,137,456	
業 務 委 託 費	14,000,000	10,033,155	
一 般 事 務 費	14,280,000	13,514,674	
印刷費	350,000	263,556	
通信費	12,900,000	11,773,193	プログラム、会報、会員名簿等郵送料
庶務事務費	680,000	680,000	庶務幹事事務費 50 万円、HP 更新手当 18 万円
雑 費	350,000	797,925	
三菱化学奨励賞関係費	1,300,000	531,500	副賞 50 万円 (1 名)、賞状筆耕代他
予 備 費	2,000,000	1,956,396	会員名簿調査・関係費用 (返信は FAX 回答)
支 出 小 計	66,130,000	59,009,572	
次 年 度 繰 越 金			
	27,275,270	40,401,141	
合 計	93,405,270	99,410,713	

◆ 2004 年度会計監査報告

日本分子生物学会 2004 年度収支決算報告に際し、会計帳簿、銀行通帳、会計証憑書類（領収書）などの監査を行い、決算に誤りのないことを確認しました。

日本分子生物学会第 13 期会計監査

2005 年 6 月 14 日 大 坪 栄 一 ㊞

2005 年 9 月 6 日 磯 野 克 己 ㊞

◆ 第 28 回（2005 年）日本分子生物学会年会のお知らせ（その 3）

第 28 回年会は、12 月 7 日(水)から 10 日(土)の 4 日間、ヤフードームほか周辺 5 施設にて開催されます。奮ってご参加ください。

本年度年会の概要は次の通りです。詳細は、同封のプログラムをご参照ください。

会 期：2005 年 12 月 7 日(水)～ 10 日(土)

会 場：ヤフードーム、JAL リゾート シーホークホテル福岡、Zepp Fukuoka、国立病院機構九州医療センター、福岡 SRP センタービル、九州大学西新プラザ

参加受付：12 月 7 日(水) 8:15 ～ 於：ヤフードーム

当日参加費：正会員 10,000 円、学生会員 7,000 円、非会員 11,000 円

プログラム

特別講演

日本の分子生物学の発展に貢献された 3 名の研究者を招き、ご講演いただきます。

日 時：12 月 8 日(木) 16:10 ～ 18:40

会 場：C・D 会場（シーホークホテル 1 階 アルゴス C・D）

演 者：榊 佳之（理研・ゲノム科学総合研究センター）

西本 毅治（九大・名誉教授）

宮田 隆（JT 生命誌研究館、早大・理工）

シンポジウム

国内外より著名なシンポジストを多数迎え、第 1 日目から 3 日目の午前中に各日 7 会場並行で行います。

日 時：12 月 7 日(水)～ 9 日(金) 8:50 ～ 11:20

テーマ：21 テーマ 170 演題

ワークショップ・若手ワークショップ

年會会期中に毎日最大 15 会場並行で行います。本年会では、特に「若手ワークショップ」と題し、これからの分子生物学研究を担う若い研究者による若く柔軟な視点で 8 つのセッションを企画しま

した。また、ワークショップ演者全体の4割以上を一般演題から採択しております。幅広い研究者による発表をご期待ください。

日 時：12月7日(水)～10日(土) 16:10～18:40

12月11日(日) 9:00～11:30

テーマ：56テーマ477演題（うち207題が一般演題より採択されました）

ポスターセッション

日 時：12月7日(水)～9日(金) 9:00～18:30

説明・討論：奇数番号 14:00～15:00 / 偶数番号 15:00～16:00

演 題 数：3,849題

特別枠ワークショップ

第3日目と第4日目に、P会場（九州大学西新プラザ）にて、学術的内容以外の興味深いテーマについて特別なワークショップを開催します。

1. 12月9日(金) 16:10～18:40

『研究を伝えること、研究に伝えること—生命科学のコミュニケーション—』

2. 12月10日(土) 9:00～11:30

『初等中等教育における生命科学教育の危機的状況に向かって

— 研究者と高等学校の真の連携を考える — 』

研究者フォーラム「バイオ・ライフ系の競争的研究資金制度プログラムとその動向」

1. 我が国研究費における競争的資金制度

日 時：12月9日(金) 11:40～12:40

会 場：N会場（九州医療センター3階・講堂）

2. 競争的研究資金のプログラムの最近の動向

日 時：12月10日(土) 13:00～15:00

会 場：M会場（Zepp Fukuoka）

第4回男女共同参画企画ワークショップ・シンポジウム

日 時：12月10日(土) 12:00～16:30

会 場：N会場（九州医療センター3階・講堂）

12:00～14:00 ワークショップ

『企業の女性研究者・技術者をとりまく環境』（ランチョン形式で開催します）

14:00～16:30 シンポジウム

『両性がともにキャリアパスの多様性を享受する機会を得るには：

～採用する側とされる側の希望・現実と今後の取り組み～』

市民公開講座：「生命のからくりを分子でみる ～遺伝子 — 病気 — 老化をテーマに～」

日 時：12月11日(日) 13:30～16:30（年会終了後）

会 場：エルガーラホール（福岡市中央区天神1-4-2）

演 者：榊 佳之（理研・ゲノム科学総合研究センター）

「ゲノムを通してヒトを知る」

新川 詔夫（長崎大・院医歯薬学総合）

「ヒトゲノムと病気」

石川 冬木 (京大・院生命科学)
「ストレスと老化」

特別企画「ナショナルバイオリソースプロジェクト」

NBRP シンポジウム実行委員会主催にて、リソースの利用促進ならびにリソースを利用する研究者間の交流を図るため、シンポジウムとパネル展示を行います。

シンポジウム「知的基盤としてのバイオリソースの現状と将来」

日 時：12月8日(木) 13:00～15:30
会 場：M会場 (Zepp Fukuoka)

実物つきパネル展示「バイオリソース勢ぞろい」

日 時：12月7日(水)～12月9日(金)
会 場：ヤフードーム

バイオテクノロジーセミナー

計37社の企業主催により、第1日目から3日目に各日最大13会場並行にてランチョンセミナー形式で行います。

日 時：12月7日(水)～9日(金) 12:20～13:50
テーマ：37テーマ

講演要旨集

講演要旨集は、11月25日(金)に発行を予定しております。

年会事前参加登録をされた方(参加費には講演要旨集1冊の代金が含まれます)、および講演要旨集を申し込まれた方には事前にお送りいたします。なお、本年度は講演要旨集にプログラムを掲載しません。講演要旨集とプログラム集は別冊となります。

年会期間中の宿泊についてのお問合せ

本年会のオフィシャルトラベルエージェントである日通旅行を通して会期中の宿泊予約ができます。会報No.81に綴込みの「宿泊ホテルのご案内」、および年会ホームページに掲載の「会期中の宿泊のご案内」をご利用ください。

お申し込み・お問い合わせは下記に直接ご連絡ください。

日通旅行(株) 福岡支店 営業第2課
「第28回日本分子生物学会年会係」 担当：瀧口・梁井(やない)・竹元
〒812-0034 福岡市博多区下呉服町1-1 日通ビル2階
E-mail：to-takiguchi@nittsu.co.jp
Tel：092-291-5455 Fax：092-291-5612

年会期間中の保育室開設のお知らせ

保育室

期 間：12月7日(水)～10日(土)
保育期間：8:30～19:00(10日は17:00まで)
対 象：生後8週以降から小学校3年生まで(4年生以上も応相談)
保育形態：ベビーシッター会社からの派遣シッターによる託児

委託先：(株)テノ. コーポレーション

保育料：400 円/時間

申込先：(株)テノ. コーポレーション

E-mail：info@teno.co.jp

Tel：092-263-8040 Fax：092-263-8335

お申し込みの際には、①利用日・時間（開始～終了）②保護者のお名前 ③お子様のお名前・年齢・性別 ④連絡先電話番号を必ずお知らせください。

お申し込みいただいた方には、テノ. コーポレーションより事前にお電話で、お子様について詳細をお伺いいたします。メールでお申し込みされた方で、12月3日(土)までにテノ. コーポレーションよりお電話連絡がない場合は、上記宛に必ず電話でご連絡ください。

申込締切：12月2日(金)

なお、不測の事故に対応するために、シッター会社が保険に加入しており、保険適用範囲では補償されますが、日本分子生物学会および第28回年会組織委員会は、事故の責任を負わないことを申し添えます。

親子休憩室

期 間：12月7日(水)～10日(土)

年会プログラム開始時間の30分前～プログラム終了時間の30分後

場 所：シーホークホテル3階 蘭

ヤフードーム 控室6

予約は不要ですので、お子様と一緒にの食事や休憩、授乳あるいはオムツ換えなどにご利用ください。ただし、お子様単独でのご利用はご遠慮ください。また、今後の参考に利用状況の調査を行います。利用された方は、部屋に備え付けのアンケート用ノートに利用者のお名前、所属、お子様の人数、利用時間、その他ご意見などをご記入いただきますようお願いいたします。

なお、親子休憩室内で起きた事故や怪我に対して、日本分子生物学会、第28回年会組織委員会および(株)テノ. コーポレーションは、一切の責任を負わないことを申し添えます。

会場の所在地

下記電話番号は、各会場の代表番号です。年会に対するお問い合わせは、年会事務局までお願いします。

○福岡 Yahoo! JAPAN ドーム (ヤフードーム)

〒810-8650 福岡市中央区地行浜 2-2-2

Tel：092-847-1006 (代表)

○JAL リゾート シーホークホテル福岡

〒810-8650 福岡市中央区地行浜 2-2-3

Tel：092-844-8111 (代表)

○Zepp Fukuoka

〒650-0046 福岡市中央区地行浜 2-2-3

Tel：092-832-6639 (代表)

○国立病院機構 九州医療センター
〒 810-8563 福岡市中央区地行浜 1-8-1
Tel : 092-852-0700 (代表)

○福岡 SRP センタービル
〒 814-0002 福岡市早良区百道浜 2-1-22
Tel : 092-852-3400 (代表)

○九州大学西新プラザ
〒 814-0002 福岡市早良区西新 2-16
Tel : 092-831-8104 (代表)

○エルガーラホール (12月11日(日) 市民公開講座会場)
〒 810-0001 福岡市中央区天神 1-4-2
Tel : 092-711-5017 (代表)

年会についてのお問合せ

第 28 回日本分子生物学会年会事務局
〒 532-0003 大阪市淀川区宮原 4-4-63 新大阪千代田ビル別館 9 階
E-mail : mbsj2005@aeplan.co.jp
Tel : 06-6350-7247 Fax : 06-6350-7248
〈会期中のお問合せ〉
年会本部 Tel : 092-844-7673 Fax : 092-844-7737
(臨時電話と FAX です、会期中のみの設置です)

◆第 28 回総会のご案内

第 28 回年会の第 2 日目に、日本分子生物学会第 28 回総会を、下記の要領により開催いたしますので、多くの会員のご出席をお願いいたします。

(会長 花岡文雄)

記

日 時 : 2005 年 12 月 8 日(木) 11:30 ~ 12:20

場 所 : M 会場 (Zepp Fukuoka)

(ご欠席の会員はこの会報に添付されている委任状をご提出下さい。)

◆日本分子生物学会三菱化学奨励賞授賞式および受賞講演のご案内

「平成 17 年度日本分子生物学会三菱化学奨励賞」の授賞式および受賞講演を下記の要領により開催いたします。

記

【授賞式および受賞講演】

日 時 : 2005 年 12 月 9 日(金) 11:30 ~ 12:20

場 所 : M 会場 (Zepp Fukuoka)

◆第20回国際生化学・分子生物学会議のご案内

第20回国際生化学・分子生物学会議
会長 本庶 佑

第20回国際生化学・分子生物学会議 (20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress) は、来年6月18日(日)から23日(金)までの6日間、国立京都国際会館と京都宝ヶ池プリンスホテルで開催されます。

国際生化学・分子生物学会議は、国際生化学・分子生物学連合 (International Union of Biochemistry and Molecular Biology, IUBMB) が3年ごとに開催する会議であり、またIUBMB傘下の地域組織会議も同時に開催されることが慣例となっております。今回は、アジア・オセアニア生化学者・分子生物学者連合 (FAOBMB) の第11回会議が同時開催されます。

国際生化学・分子生物学会議は、生化学・分子生物学領域の最先端の話題について幅広く議論することを目的とするものです。第20回会議は、“Life: Molecular Integration & Biological Diversity” (生命：分子の統合と生物多様性) を基本コンセプトとして、11のプレナリーレクチャーや約90のシンポジウム、約6,000題のポスターセッションなどでプログラムが構成される予定です。一般演題は全てポスターセッションとなっております。本会はポスターセッションを重視しており、2つの大きな会場にテーマ別にポスターを掲示し、十分な討論を行えるよう配慮しております。

主催は日本学術会議、社団法人日本生化学会、日本分子生物学会であり、本会議は日本生化学会の第79回大会および日本分子生物学会の第29回年会を兼ねております。そのため、国際会議ではありますが、従来に比べて参加費を極力抑えて若手研究者の皆様にも参加しやすいよう配慮しております。日本分子生物学会会員の皆様の積極的な演題の提出とご参加をお待ちしております。

なお、若手研究者を対象とする Young Scientists' Program (YSP) の応募受付を開始いたしました。本会議ホームページ (<http://www.congre.co.jp/iubmb/>) よりご応募いただけます。その他にも、ホームページで最新ニュースを随時ご案内いたしますので、是非ご覧ください。

【プログラム】

Plenary Lectures

Sun. June 18

IUBMB/FAOBMB Hayaishi Lecture

Main Hall

Charles S. Zuker (USA)

Tentative Title: The molecular biology of taste

IUBMB Slater Lecture

Main Hall

Pascale Cossart (France)

Tentative Title: Host pathogen interactions: The listeria paradigm

Mon. June 19

IUBMB Lecture

Main Hall / 8:30-9:20

Gerald Hart (USA)

Tentative Title: Dynamic interplay between phosphorylation and O-GlcNAcylation: Roles in signaling, transcription & cell survival

IUBMB Ochoa Lecture

Main Hall / 13:30-14:20

David C. Baulcombe (UK)

Tentative Title: Gene silencing in plants

Tue. June 20

FAOBMB Murachi Lecture

Main Hall / 8:30-9:20

Zhu Chen (China)

Tentative Title: Systems biology of leukemia

Wed. June 21

IUBMB Beatty Lecture

Main Hall / 8:30-9:20

Tak W. Mak (Canada)

Tentative Title: Genetic dissection of cell death pathways

FAOBMB Lecture

Main Hall / 13:30-14:20

Yoshinori Ohsumi (Japan)

Tentative Title: Cellular recycle system - Molecular dissection of autophagy -

Thu. June 22

FEBS Lecture

Main Hall / 8:30-9:20

Iain Mattaj (Germany)

Tentative Title: Postmitotic nuclear envelope assembly

Nishizuka Lecture

Main Hall / 13:30-14:20

Hans Clevers (The Netherlands)

Tentative Title: Wnt and notch signaling pathways in development and cancer of the gut

Fri. June 23

FAOBMB/IUBMB Yagi Lecture

Main Hall / 8:30-9:20

Bruce Stillman (USA)

Tentative Title: The origin recognition complex and the duplication of chromosomes in eukaryotes

FAOBMB Svasti Lecture

Main Hall / 13:30-14:20

Sunghoon Kim (Korea)

Tentative Title: Functional network of aminoacyl-tRNA synthetases and human diseases

Symposia (Tentative)

Mon. June 19

S01 Main Hall / 9:30-11:45

Glycobiology

Disorder of glycosylation and disease

chair: Toshisuke Kawasaki (Japan)

chair: William Lennarz (USA)

S02 Room A / 9:30-11:45

RNA

The frontiers of RNA research on diversified gene expression network

chair: Akila Mayeda (USA)

chair: Stefan Stamm (Germany)

S03 Room B-1 / 9:30-11:45

Bioenergetics

ATP-driven pumps and their roles in cellular functions

chair: Masatomo Maeda (Japan)

chair: Ernesto Carafoli (Italy)

S04 Room B-2 / 9:30-11:45

Molecular Evolution

Diversification and evolution of protein-protein interactions in view of proteome

chair: Takashi Gojobori (Japan)

chair: Wen-Hsiung Li (USA)

S05 Room D / 9:30-11:45

Plant Biology

Plant development and cell death: View from cell biology

chair: Ikuko Hara-Nishimura (Japan)

chair: Jean T. Greenberg (USA)

S06 Room E / 9:30-11:45

Commemorative Symposium

Biology and disorders of ADP-ribosylation: in

commemoration of the 40th anniversary of the discovery of ADP-ribosylation

chair: Mitsuko Masutani (Japan)

chair: Joel Moss (USA)

S07 Prince Hall / 9:30-11:45

Transcription

Role of co-regulator complexes in transcription regulation

chair: Shigeaki Kato (Japan)

chair: Christopher K. Glass (USA)

S08 Gold Room / 9:30-11:45

Single Molecule Biology

Single molecule nanobiology

chair: Toshio Yanagida (Japan)

chair: Claudia Veigel (UK)

S09 Takasago Room / 9:30-11:45

Biotechnology

JBA Session:

The possibilities and limitations of bio-analysing technologies

chair: Kenichi Matsubara (Japan)

S10 Suehiro Room / 9:30-11:45

Infectious Diseases

Emerging viral and prion diseases

chair: Yoshihiro Kawaoka (Japan)

chair: Heinz Feldmann (Canada)

S11 Main Hall / 14:30-16:45

RNA

Small RNAs as regulators of gene expression

chair: Haruhiko Siomi (Japan)

chair: V. Narry Kim (Korea)

S12 Room A / 14:30-16:45

Glycobiology

Complex formation on the membrane and sugar chains

chair: Akemi Suzuki (Japan)

chair: Pamela Stanley (USA)

S13 Room B-1 / 14:30-16:45

Bioenergetics

Electron transport systems in biomembranes

chair: Shinya Yoshikawa (Japan)

chair: William A. Cramer (USA)

S14 Room B-2 / 14:30-16:45

Molecular Evolution

Molecular mechanism of species diversification

chair: Norihiro Okada (Japan)

chair: Thomas D. Kocher (USA)

S15 Room D / 14:30-16:45

Plant Biology

Signaling networks in plants

chair: Akira Nagatani (Japan)

chair: Klaus Palme (Germany)

S16 Room E / 14:30-16:45

Commemorative Symposium

Structures and functions of oxygenases: In commemoration of the 50th anniversary of the discovery of oxygenases

chair: Shozo Yamamoto (Japan)

chair: Bettie Sue Masters (USA)

S17 Prince Hall / 14:30-16:45

Transcription

Transcription control and chromatin structure

chair: Shunsuke Ishii (Japan)

chair: Jerry L. Workman (USA)

S18 Gold Room / 14:30-16:45

Single Molecule Biology

Single molecule imaging of cell signaling in living cells

chair: Akihiro Kusumi (Japan)

chair: Barbara A. Baird (USA)

S19 Takasago Room / 14:30-16:45

Immunity

Chemokines: regulation of cell migration in immune response and development

chair: Osamu Yoshie (Japan)

chair: John H. Kehrl (USA)

S20 Suehiro Room / 14:30-16:45

Infectious Diseases

Biology for Malaria control

chair: Toshihiro Horii (Japan)

chair: Chetan E. Chitnis (India)

Tue. June 20

S21 Main Hall / 9:30-11:45

Genomics

Genomics of multifactorial diseases

chair: Takehiko Sasazuki (Japan)

S22 Room A / 9:30-11:45

Aging and Diseases

Aging

chair: Yo-ichi Nabeshima (Japan)

chair: Lenny Guarente (USA)

S23 Room B-1 / 9:30-11:45

Neuroscience

Molecular mechanisms of neurodegenerative diseases

-horizon for disease mechanism-based therapeutics

chair: Shoji Tsuji (Japan)

S24 Room B-2 / 9:30-11:45

Cell Adhesion

Extracellular matrix as a determinant of tissue

architecture and cellular function

chair: Kiyotoshi Sekiguchi (Japan)

chair: Kenneth M. Yamada (USA)

S25 Room D / 9:30-11:45

Plant Biology

Plant pathogenesis

chair: Ko Shimamoto (Japan)

chair: Brian Staskawicz (USA)

S26 Room E / 9:30-11:45

Biotechnology

Recent development of chromatographic technology and its application to therapy and diagnosis

chair: Kuniyo Inouye (Japan)

chair: Milton T. Hearn (Australia)

S27 Prince Hall / 9:30-11:45

Biotechnology

JPMA Session: Chemical biology

chair: Tetsuo Nagano (Japan)

S28 Gold Room / 9:30-11:45

Membrane Trafficking

Regulating membrane traffic to endosomes/lysosomes

chair: Kazuhisa Nakayama (Japan)

chair: Sandra Schmid (USA)

S29 Takasago Room / 9:30-11:45

Education

Teaching Biochemistry in the 21st century

chair: Haruhiko Masaki (Japan)

chair: Edward Wood (UK)

S30 Suehiro Room / 9:30-11:45

Transcription

Epigenetics in cellular memory

chair: Yoichi Shinkai (Japan)

chair: Terumi Kohwi-Shigematsu (USA)

Wed. June 21

S31 Main Hall / 9:30-11:45

Cell Death

Molecular mechanism of apoptosis

chair: Shigekazu Nagata (Japan)

chair: Junying Yuan (USA)

S32 Room A / 9:30-11:45

Membrane Trafficking

Membrane traffic: Molecular mechanisms

chair: Akihiko Nakano (Japan)

chair: William E. Balch (USA)

S33 Room B-1 / 9:30-11:45

Aging and Diseases

Metabolic syndrome, atherosclerosis and obesity

chair: Juro Sakai (Japan)

chair: Jae Bum Kim (Korea)

S34 Room B-2 / 9:30-11:45

Education

chair: Donald Voet (USA)

chair: Judith G. Voet (USA)

S35 Room D / 9:30-11:45

Cell Adhesion

Cell-cell adhesion
chair: Yoshimi Takai (Japan)
chair: Elaine Fuchs (USA)

S36 Room E / 9:30-11:45

Signal Transduction

NO and CO: Distinct biochemical identity
chair: Makoto Suematu (Japan)
chair: Nader G. Abraham (USA)

S37 Prince Hall / 9:30-11:45

Immunity

Frontier in the molecular biology of lymphocytes
chair: Tadatsugu Taniguchi (Japan)
chair: Richard Flavell (USA)

S38 Gold Room / 9:30-11:45

Neuroscience

Constructing brain structures (tentative title)
chair: Fujio Murakami (Japan)
chair: John Parnavelas (UK)

S39 Takasago Room / 9:30-11:45

Biotechnology

Chugai Session: Towards molecular targeting
therapeutics- Basic research and its application
chair: Tatsumi Yamazaki (Japan)

S40 Suehiro Room / 9:30-11:45

Sleep and Clock

Biochemical mechanisms of sleep-wake regulation
chair: Yoshihiro Urade (Japan)
chair: Bertil B. Fredholm (Sweden)

S41 Main Hall / 14:30-16:45

Cell Death

Apoptosis in development and disease
chair: Masayuki Miura (Japan)
chair: Michael Hengartner (Switzerland)

S42 Room A / 14:30-16:45

Membrane Trafficking

Membrane traffic: Physiology and diseases
chair: Hiroshi Ohno (Japan)
chair: Graca Raposo (France)

S43 Room B-1 / 14:30-16:45

Aging and Diseases

Angiogenesis and lymphangiogenesis
chair: Masabumi Shibuya (Japan)
chair: Anne Eichmann (France)

S44 Room B-2 / 14:30-16:45

Lipid

Lipid mediators in health and diseases
chair: Junken Aoki (Japan)
chair: Glenn D. Prestwich (USA)

S45 Room D / 14:30-16:45

Cell Adhesion

Cell-substrate adhesion
chair: Tatsuo Kinashi (Japan)
chair: Timothy A. Springer (USA)

S46 Room E / 14:30-16:45

Signal Transduction

New aspects of phosphoinositide signaling
chair: Kiyoko Fukami (Japan)
chair: Donald W. Hilgemann (USA)

S47 Prince Hall / 14:30-16:45

Immunity

Innate immunity: From plants to animals
chair: Shizuo Akira (Japan)
chair: Jules A. Hoffmann (France)

S48 Gold Room / 14:30-16:45

Neuroscience

Neuronal polarity
chair: Kozo Kaibuchi (Japan)
chair: Carlos G. Dotti (Italy)

S49 Takasago Room / 14:30-16:45

Genomics

Regulatory genomics
chair: Yoshiyuki Sakaki (Japan)
chair: Hans Lehrach (Germany)

S50 Suehiro Room / 14:30-16:45

Sleep and Clock

From clock biochemistry to molecular medicine
chair: Norio Ishida (Japan)
chair: Fred W. Turek (USA)

Thu. June22

S51 Main Hall / 9:30-11:45

Structures and Proteins

Structural biology on cellular surface
chair: Yoshinori Fujiyoshi (Japan)
chair: Nigel Unwin (UK)

S52 Room A / 9:30-11:45

Signal Transduction

Roles of kinases in cell regulation
chair: Yukiko Gotoh (Japan)

S53 Room B-1 / 9:30-11:45

Development

Advances in skeletomics in development and growth
chair: Toshiyuki Yoneda (Japan)
chair: Erwin F. Wagner (Austria)

S54 Room B-2 / 9:30-11:45

Systems Biology

Decoding networks underlying complex biological
systems
chair: Hiroki R. Ueda (Japan)

S55 Room D / 9:30-11:45

Aging and Diseases

Dendritic cells and human diseases

chair: Tatsutoshi Nakahata (Japan)

chair: Virginia Pascual (USA)

S56 Room E / 9:30-11:45

Lipid

Lipid transport and membrane genesis

chair: Masahiro Nishijima (Japan)

chair: Jean E. Vance (Canada)

S57 Prince Hall / 9:30-11:45

Quality Control of Proteins and Proteolysis

Proteases and protease inhibitors in health and disease

chair: Hiroshi Kido (Japan)

chair: Guy Salvesen (USA)

S58 Gold Room / 9:30-11:45

Cancer

Abnormality of the cell cycle checkpoints in cancer

chair: Yoichi Taya (Japan)

chair: Carol Prives (USA)

S59 Takasago Room / 9:30-11:45

Cytoskeleton

Dynamics and structural basis of cytoskeleton assembly

chair: Shuh Narumiya (Japan)

chair: Fiona Watt (USA)

S60 Suehiro Room / 9:30-11:45

DNA Repair and recombination

DNA recombination with sequence specificity

chair: Reiko Shinkura (Japan)

chair: Fred Alt (USA)

S61 Main Hall / 14:30-16:45

Development

Recent progress in stem cell biology

chair: Shinya Yamanaka (Japan)

chair: Austin Smith (UK)

S62 Room A / 14:30-16:45

Signal Transduction

Calcium signaling

chair: Katsuhiko Mikoshiba (Japan)

chair: Andrew Miller (China)

S63 Room B-1 / 14:30-16:45

RNA

RNA metabolism: Its involvement in physiology and diseases

chair: Hideyuki Okano (Japan)

chair: Robert B. Darnell (USA)

S64 Room B-2 / 14:30-16:45

Systems Biology

Complex and dynamic behaviors of the gene networks

chair: Shigeru Kondo (Japan)

chair: Lingchong You (USA)

S65 Room D / 14:30-16:45

Structures and Proteins

Structural basis on the regulation of intracellular

signaling

chair: Fuyuhiko Inagaki (Japan)

S66 Room E / 14:30-16:45

Lipid

Lipid modifications of proteins

chair: Taroh Kinoshita (Japan)

chair: Fuyuhiko Tamanoi (USA)

S67 Gold Room / 14:30-16:45

Cancer

Signaling abnormalities in cancer

chair: Kohei Miyazono (Japan)

chair: Carl-Henrik Heldin (Sweden)

S68 Takasago Room / 14:30-16:45

Cytoskeleton

Integrating signals for cell migration

chair: Tadaomi Takenawa (Japan)

chair: Richard Firtel (USA)

S69 Suehiro Room / 14:30-16:45

DNA Repair and recombination

Homologous recombination

chair: Shunichi Takeda (Japan)

chair: James E. Haber (USA)

Fri. June 23

S70 Main Hall / 9:30-11:45

Chromosome

Molecular cell biology of chromosome dynamics

chair: Tatsuya Hirano (USA)

chair: Laemmli Ulrich (Switzerland)

S71 Room A / 9:30-11:45

Development

Signaling networks in embryo and organogenesis

chair: Hisato Kondoh (Japan)

chair: Marianne Bronner-Fraser (USA)

S72 Room B-1 / 9:30-11:45

Cytoskeleton

Mechanisms of epitheliogenesis

chair: Shigeo Ohno (Japan)

chair: Mark Krasnow (USA)

S73 Room B-2 / 9:30-11:45

Agrobiolgy and Nutraceutical biotechnology

A new era of rice genome research, molecular integration and biological diversity

chair: Takuji Sasaki (Japan)

chair: Susan R. McCouch (USA)

S74 Room D / 9:30-11:45

Cell Cycle

DNA replication and the cell cycle

chair: Haruhiko Takisawa (Japan)

chair: Ron Laskey (UK)

S75 Room E / 9:30-11:45

Bioinformatics

Pathway database

chair: Minoru Kanehisa (Japan)

chair: Peer Bork (Germany)

S76 Prince Hall / 9:30-11:45

Quality Control of Proteins and Proteolysis

Uncovering the mystery of ubiquitin-proteasome system

chair: Keiji Tanaka (Japan)

chair: Chin Ha Chung (Korea)

S77 Gold Room / 9:30-11:45

Organelle Biogenesis

Organelle biogenesis and human disorders

chair: Yukio Fujiki (Japan)

chair: Walter Neupert (Germany)

S78 Takasago Room / 9:30-11:45

Redox

Redox sensor mechanism against electrophiles

chair: Koji Uchida (Japan)

chair: Thomas W. Kensler (USA)

S79 Suehiro Room / 9:30-11:45

Biotransformation

Biodiversity of P450 and drug metabolism

chair: Tetsuya Kamataki (Japan)

chair: Frank J. Gonzalez (USA)

S80 Main Hall / 14:30-16:45

Chromosome

Mechanisms of chromosome condensation and segregation

chair: Yoshihiro Yoneda (Japan)

chair: Andy Choo (Australia)

S81 Room A / 14:30-16:45

Structures and Proteins

Functional and structural biology on macromolecular assemblies in nuclei

chair: Kosuke Morikawa (Japan)

S82 Room B-1 / 14:30-16:45

DNA Repair and recombination

DNA damage and repair in cancer and aging

chair: Fumio Hanaoka (Japan)

chair: Wei Yang (USA)

S83 Room B-2 / 14:30-16:45

Agrobiology and Nutraceutical biotechnology

Fermentation and agrobiotechnology

chair: Katsuhiko Kitamoto (Japan)

chair: Ying-Chieh Tsai (Taipei, China)

S84 Room D / 14:30-16:45

Cell Cycle

Molecular dynamics at the eukaryotic DNA replication fork and its dysfunctional consequences

chair: Akio Sugino (Japan)

chair: Peter Burgers (USA)

S85 Room E / 14:30-16:45

Bioinformatics

Gene expression analysis and gene network inference

chair: Satoru Miyano (Japan)

chair: Alvis Brazma (UK)

S86 Prince Hall / 14:30-16:45

Quality Control of Proteins and Proteolysis

Quality control of proteins from bacteria to human

chair: Kazutoshi Mori (Japan)

chair: Ari Helenius (Switzerland)

S87 Gold Room / 14:30-16:45

Organelle Biogenesis

Dynamics of organelle morphology and its regulation

chair: Katsuyoshi Mihara (Japan)

chair: Kai Simons (Germany)

S88 Takasago Room / 14:30-16:45

Redox

Biological responses for reactive oxygen and hypoxia

chair: Masayuki Yamamoto (Japan)

chair: Lorenz Poellinger (Sweden)

S89 Suehiro Room / 14:30-16:45

Bioactive Substances from Natural Environment

New strategy for scientific elucidation of traditional herbal medicine

chair: Haruki Yamada (Japan)

chair: Ming-Jai Su (Taipei, China)

【Poster Sessions】

一般演題は全てポスターセッションとなっております。

【演題募集】

1. 演題登録期間
2005年12月5日開始、2006年1月31日締切
2. 演題登録方法
オンライン登録のみ (<http://www.congre.co.jp/iubmb/>)
UMIN のシステムで演題を受け付けます。
3. 発表内容
内容は他の学会等で発表していないものに限りです。
4. 演題の採否および決定
演題の採否および決定はプログラム委員会が行ないます。
5. 抄録の発行および公開
抄録は「第20回国際生化学・分子生物学会議抄録集」として発行されます。また、希望者には、抄録集の講演要旨に、代表発表者の E-mail アドレスを掲載いたします（演題登録時に E-mail を掲載するかどうかの希望を伺います）。
6. 代表発表者（演者）
 - ① 同一人は、1 演題に限って代表発表者となることができます。
 - ② 代表発表者は、演題登録前に、大会の事前参加登録をしていただきます。オンライン登録 (<http://www.congre.co.jp/iubmb/>) で参加登録・登録費支払いを済ませておいてください。参加登録費の入金が2006年1月31日までに確認できない場合は、プログラム、抄録集に演題が掲載されません。
 - ③ 日本分子生物学会会員の方は、演題登録時に、会員番号が必要となります。
7. 抄録作成要領
本大会の抄録集は英文で作成いたします。講演要旨は英文により、演題、著者名、所属名、本文を含めて半角 2,000 字以内にて記載してください。
8. 発表希望分類
下記の発表希望分類より第1希望、第2希望の順に2つ選んでください。
9. ご注意
 - ① パソコンには WWW ブラウザ（Netscape Communicator ver.4.0 以上や Internet Explorer ver.4.0 以上など）がインストールされていることが必要です。なお、WWW ブラウザは出来るだけ新しいものを使用してください。
 - ② 演題登録後も、締切前であれば、要旨等の訂正は可能ですが、その際には登録番号およびパスワードが必要です。演題登録時に必ず控えておいてください。
 - ③ 締切当日はアクセスが集中し、演題登録に支障をきたすことが考えられますので、余裕を持って登録を行ってください。
 - ④ 演題登録後、入力した電子メールアドレス宛に登録番号、演題受領通知が送信されます。演題受領通知が届かない場合は、新規演題登録が完了していないか登録した電子メールアドレスに誤りがあった可能性がありますので、iubmbabst@congre.co.jp まで電子メールでお問合せください。

[Scientific Topics]

Glycobiology

- 01.01 Glycoproteins
- 01.02 Glycolipids
- 01.03 Proteoglycans
- 01.04 Lectins
- 01.05 Carbohydrate-related enzymes
- 01.06 Glycotechnology
- 01.07 Others

Lipid

- 02.01 Lipid metabolome
- 02.02 Phospholipids
- 02.03 Sphingophospholipids
- 02.04 Phosphoinositide
- 02.05 Bioactive lipids and receptors
- 02.06 Cholesterol and lipoproteins
- 02.07 Fatty acids and glyceride
- 02.08 Steroids
- 02.09 Lipid modification in proteins
- 02.10 Others

Structures and Proteins

- 03.01 Structural biology
- 03.02 Functional proteomics
- 03.03 Transfer proteins, Transporters
- 03.04 Others

Bioenergetics

- 04.01 Ion transporting ATPases
- 04.02 Electron transfer
- 04.03 Others

Quality Control of Proteins and Proteolysis

- 05.01 Protein folding and Quality control of proteins
- 05.02 Molecular chaperones
- 05.03 Proteases
- 05.04 Ubiquitin and proteasome
- 05.05 Autophagy
- 05.06 Others

Signal Transduction

- 06.01 Extracellular signaling molecules
- 06.02 Membrane receptor signaling
- 06.03 Nuclear receptor signaling
- 06.04 Cyclic nucleotides and target proteins
- 06.05 Calcium and target proteins
- 06.06 Phospholipids and target proteins
- 06.07 Protein kinases and phosphatases
- 06.08 MAP kinase family
- 06.09 Trimeric G proteins
- 06.10 Small G proteins
- 06.11 Adaptor proteins
- 06.12 Nitric oxide (NO)
- 06.13 Ion channels
- 06.14 Stress and stress responses
- 06.15 Others

Redox

- 07.01 Redox
- 07.02 Others

Cytoskeleton

- 08.01 Cell motility
- 08.02 Cytoskeleton
- 08.03 Others

Cell Adhesion

- 09.01 Cell-cell interactions and recognition
- 09.02 Extracellular matrix
- 09.03 Others

Membrane Trafficking

- 10.01 Intracellular trafficking
- 10.02 Vesicular transport
- 10.03 Others

Organelle Biogenesis

- 11.01 Dynamism of biomembranes
- 11.02 Biogenesis of intracellular organelles
- 11.03 Structure and function of intracellular organelles
- 11.04 Others

Cell Death

- 12.01 Apoptosis
- 12.02 Others

Single Molecule Biology

- 13.01 Biosensing
- 13.02 Bioimaging
- 13.03 Others

Genomics

- 14.01 Genes and nucleic acids
- 14.02 Genome information
- 14.03 Others

Chromosome

- 15.01 Genome function
- 15.02 Nuclear structures and functions
(Chromosome, Chromatin, Nucleoli)
- 15.03 Epigenetic regulation
- 15.04 Gene silencing
- 15.05 Extra-chromosomal factor
(Viruses, Phages, Plasmids, Transposons)
- 15.06 Others

Cell Cycle

- 16.01 Cell proliferation
- 16.02 Cell division
- 16.03 Replication
- 16.04 Others

DNA Repair

- 17.01 DNA recombination
- 17.02 DNA modifications
- 17.03 Mutations
- 17.04 Others

Transcription

- 18.01 Transcription
- 18.02 Others

RNA

- 19.01 RNA functions
- 19.02 RNA processing
- 19.03 Translation
- 19.04 Non-coding RNA
- 19.05 Others

Molecular Evolution

- 20.01 Molecular evolution
- 20.02 Others

Development

- 21.01 Embryogenesis
- 21.02 Morphogenesis
- 21.03 Cell differentiation

- 21.04 Stem cells, reproduction, fertilization
- 21.05 Regeneration
- 21.06 Others
- Neuroscience**
- 22.01 Development and differentiation of the nervous system
- 22.02 Neural signal transduction
- 22.03 Synaptic transmission and brain function
- 22.04 Others
- Systems Biology**
- 23.01 Molecular and Cellular Networks
- 23.02 Simulation / in silico Reconstruction
- 23.03 Others
- Bioinformatics**
- 24.01 Genome informatics
- 24.02 Metabolomics
- 24.03 Proteomics
- 24.04 Others
- Immunity**
- 25.01 Immunology and related diseases
- 25.02 Others
- Aging and Diseases**
- 26.01 Aging
- 26.02 Cardiovascular diseases
- 26.03 Life style-related diseases
- 26.04 Stress and diseases
- 26.05 Endocrinological and metabolic diseases
- 26.06 Neurological diseases
- 26.07 Miscellaneous diseases
- 26.08 Molecular diagnosis and laboratory medicine
- 26.09 Drugs, toxins and environmental factors
- 26.10 Others
- Infectious Diseases**
- 27.01 Infectious diseases
- 27.02 Others
- Cancer**
- 28.01 Cancer
- 28.02 Others
- Plant Biology**
- 29.01 Photosynthesis
- 29.02 Metabolisms
- 29.03 Plant morphogenesis, cell structure and organelle
- 29.04 Plant hormones
- 29.05 Plant-pathogen interactions
- 29.06 Plant gene expression
- 29.07 Signal reception and transduction
- 29.08 Others
- Sleep and Clock**
- 30.01 Sleep and Clock
- 30.02 Others
- Enzymes**
- 31.01 Enzyme mechanism
- 31.02 Oxidoreductases
- 31.03 Metallo enzymes and hemeoxygenases
- 31.04 Flavo enzymes
- 31.05 Pyridoxal enzymes
- 31.06 Transferases
- 31.07 Hydrolytic enzymes (hydrolases)
- 31.08 Enzyme inhibition
- 31.09 Nucleic acid metabolism
- 31.10 Vitamines
- 31.11 Polyamines
- 31.12 Inorganic compounds
- 31.13 Others
- Biotechnology**
- 32.01 Protein engineering
- 32.02 Enzyme engineering
- 32.03 Genetic engineering
- 32.04 Cell engineering
- 32.05 Antibody engineering
- 32.06 Nano-biotechnology
- 32.07 Molecular breeding
- 32.08 Artificial organ
- 32.09 Others
- Agrobiolgy and Nutraceutical biotechnology**
- 33.01 Agrobiolgy and nutraceutical biotechnology
- 33.02 Others
- Bioactive Substances from the Natural Environment**
- 34.01 Bioactive substances from natural environment
- 34.02 Others
- Education**
- 35.01 Education
- 35.02 Others
- Biotransformation**
- 36.01 Biotransformation
- 36.02 Other

以上の学術プログラム以外に、バイオインダストリーセミナー、イブニングワークショップ、企業説明会、機器展示等を開催し、産学連携や若手研究者育成の機会を提供したいと考えております。

【事前登録】

2005年12月5日開始、2006年5月18日締切

※オンライン登録のみ (<http://www.congre.co.jp/iubmb/>) (5月19日以降は当日登録)

注) 演題を提出される方は、必ず登録および登録費の払い込みが必要です(締切2006年1月31日)。演題が採用されなかった場合は、全額返金いたします。発表者の登録費入金が2006年1月31日までに確認できない演題については、プログラム、抄録集には掲載されません。

【登録費】

	～ 2006 年 5 月 18 日	2006 年 5 月 19 日～
研究者（非営利組織所属）	20,000 円	25,000 円
研究者（営利組織所属）	35,000 円	40,000 円
学 生（要学生証）	6,000 円	7,000 円
同伴者	5,000 円	6,000 円
バンケット	8,000 円	8,000 円

【Young Scientists' Program (YSP)】

若手研究者を対象とする Young Scientists' Program (YSP) が、本会議に先行して、2006 年 6 月 16 日(金)から 18 日(日)午前中まで、コープイン京都で開催されます。

対 象：大学院生(最終学年)、博士研究員、生化学・分子生物学分野の就職後 2、3 年以内の研究者

- 特 典：**
1. 京都までの旅費の一部援助
 2. YSP 期間中の食事・宿泊
 3. 本会議の登録費免除
 4. 本会議中の宿泊（6 泊分）
 5. 無料エクスカージョン（6 月 20 日）

募 集：2005 年 9 月 1 日開始、2005 年 11 月末締切

※オンライン登録のみ (<http://www.congre.co.jp/iubmb/>)

提出書類：演題、CV、論文リスト、志望動機、研究責任者からの推薦書
注) 本会議への出席および演題提出が義務付けられています。

【お問合せ先】

第 20 回国際生化学・分子生物学会議事務局

〒 541-0047 大阪市中央区淡路町 3-6-13

株式会社コングレ内

TEL: 06-6229-2550 FAX: 06-6229-2556

E-mail: iubmb@congre.co.jp

<http://www.congre.co.jp/iubmb/>

◆学術賞、研究助成の本学会推薦について

本学会に推薦依頼あるいは案内のある学術賞、研究助成は、会報 No.80 (2月号)に一覧として掲載しております。そのうち、応募にあたり学会等の推薦が必要なものについての本学会からの推薦は、本学会選考委員会または賞推薦委員会の審査に従って行います。応募希望の方は、直接助成先に問合せ、申請書類を各自お取寄せのうえ、ふるってご応募下さい。

本学会への推薦依頼の手続きは次の通りです。

1. 提出物

- 1) 本申請に必要な書類 (オリジナルおよび募集要項に記載されている部数のコピー)
- 2) 研究助成・選考委員用および学会用控に、上記申請書類のコピー計6部 (論文は不要) (賞推薦の場合はコピー計7部をご提出下さい。)
- 3) 申込受付確認のための返信封筒または葉書 (返信用の宛名を記入しておいて下さい)

2. 提出先

※賞推薦についての送付先

日本分子生物学会 賞推薦委員長 辻本賀英
〒565-0871 吹田市山田丘2-2 大阪大学大学院医学系研究科 B8 遺伝子学
FAX : (06) 6879-3369

※研究助成についての送付先

日本分子生物学会 研究助成・選考委員長 石川冬木
〒606-8502 京都市左京区北白川追分町 理学部1号館2F245
京都大学大学院生命科学研究科 細胞周期学分野
FAX : (075) 753-4197

3. 提出期限

財団等の締切の1カ月前まで。提出期限後に受取った場合や、提出書類が不備な場合は、選考の対象にならないことがあります。

◆男女共同参画委員会活動報告

日本分子生物学会ではこれまで学会長の諮問機関である男女共同参画ワーキンググループにより、年会におけるシンポジウムの開催や保育室の手配等を行ってまいりましたが、平成17年度から男女共同参画委員会として正式に発足することになりました。構成員は下記のようになっています。委員会発足後に行いました活動について以下ご報告致します。幸い、8月末になされた文部科学省の来年度の概算要求の中には、「子育て支援ポストドク制度」や「モデル事業」など本学会からの男女共同参画推進提言に盛り込まれた内容に近い施策が挙げられています。今後とも両性がともに研究をしやすい環境の醸成を目指した取り組みを行っていく予定です。何かご意見がありましたら是非委員会までお寄せ下さい。(文責：大隅典子)

【日本分子生物学会男女共同参画委員会】(敬称略)

◆委員

大隅典子 (東北大、委員長)、伊藤 啓 (東大)、大住千栄子 (味の素)、大坪久子 (東大、学協会連絡員)、金井正美 (杏林大、学協会連絡員)、後藤由季子 (東大、生化学会との連携)、糸 昭苑 (熊本大)、田賀哲也 (熊本大)、平田たつみ (遺伝研、神経科学会との連携)、広海 健 (遺伝研)、森 郁恵 (名大)

◆オブザーバー：

花岡文雄（現会長）、桂 勲（広報幹事）、永田恭介（庶務幹事）

【男女共同参画の推進に関する提言の周知】

ワーキンググループが作成し、4月2日の評議員会で承認された「ライフサイエンス分野における男女共同参画の推進に関する提言」（全文は日本分子生物学会ホームページをご参照下さい）の周知のために、学会長より文部科学省科学技術・学術政策局長、内閣府男女共同参画局長、科学技術政策担当政策統括官ならびに各局の担当者へ提言を提出し、意見交換を行いました。また、新聞社等にプレスリリースを行い、大手新聞数紙で記事として取り上げられました。

http://wwwsoc.nii.ac.jp/mbsj/kyodosankaku/kyosank_teigenkeisai.htm

【学術会議からの提言作成と提出】

8月に日本生物物理学会との共同提案として学術会議第四部会（当時）に「科学者・技術者の人材のさらなる活用を図る男女共同参画制度の整備について－理工学系の現状に基づく提言－」を提出し、承認されました。これは「ライフサイエンス分野における男女共同参画の推進に関する提言」を元に日本生物物理学会と内容をすり合わせたものとなっています（全文は日本分子生物学会ホームページをご参照下さい）。この提言は郷信広部会長（当時）から内閣府男女共同参画局長へ提出されました。

【男女共同参画学協会連絡会の幹事】

加盟学会の持ち回りになっている男女共同参画学協会連絡会の幹事を、2005年秋より1年間、本学会が引き受けることになりました。

【女子高生夏の学校～科学・技術者のたまごたちへ～】

8月22～23日に男女共同参画学協会連絡会の主催により国立女性教育会館（埼玉県）にて開催された「女子高生夏の学校」において、日本分子生物学会会員の福田公子氏、間山智子氏および大学院生数名が運営スタッフとして参加しました。この催しは大手新聞やNHKなど各種メディアに取り上げられ、大きな反響を呼びました。来年も同様の企画を予定しています。

【応用物理学会年会・男女共同参画第7回ミーティングに協力】

9月9日、徳島市で開催された応用物理学会年会の男女共同参画第7回ミーティング「ワーク・アンド・ライフ・バランス－みんなで考えよう“仕事と育児”－」で、分子生物学会会員の篠原美紀氏（阪大・蛋白研）が、分子生物学会の年会保育室について報告をしてくださいました。

【IUBMBにおける男女共同参画シンポジウムの企画】

2006年6月に開催されるIUBMBにおいては、日本生化学会および日本分子生物学会が協力して男女共同参画シンポジウムを開催することになりました。現在演者の人選等の準備を進めています。

【日本分子生物学会年会における男女共同参画関連行事の準備】

福岡で開催される第28回日本分子生物学会年会におきましても保育室を設置いたします。また、第4回男女共同参画シンポジウムでは以下の2つの企画を主催するべく、準備を進めています。

1) 両性がともにキャリアパスの多様性を享受する機会を得るには：

～採用する側と採用される側の希望・現実と今後の取り組み～

世話人：糸 昭苑（熊大・発生医学研セ）、田賀哲也（熊大・発生医学研セ）

趣 旨：

分子生物学会年会のポスター会場では例年大勢の女性研究者が発表や討論をしていますが、独立した研究グループのリーダー（PI）をしている女性を思い浮かべると、そんなに多くはありません。分子生物学領域に参入した多くの女性の学部学生や大学院生がPIになる機会は男性に比べて随分少ないのを実感します。いったいどうしてでしょう。「なんとなくわかる」という人もいれば、「それは…」という確信的理由を感じる人もいます。生物種が多様性であることで、また個体の生体応答が多様であることで環境の変化に対応して存続・成長しつづけるように、分子生物学の研究領域も人材の多様性を活かせることが重要と思います。「そんなこと言っただって現実…」と考える女性研究者の皆さん、「自分のキャリアアップだけでも精一杯なのに…」という男性ポスドクの方々、「いざ雇用する立場になったら…」という管理職の先生方！この男女共同参画シンポジウムは単に女性の研究環境改善を訴えるのではなく、分子生物学研究領域の発展にとって大変重要なことを議論します。

男女共同参画については色々な視点から考えなければならないことがあります。今年の年会では特に、男性女性にかかわらずキャリアパスの多様性が有る環境下で研究のチャンスを得ることが発展性につながるのではないかとこの視点のもとで、希望と現実を語り合い今後の取り組みに必要なことを議論したいと考えます。さあ、男性ポスドクの皆さん、男女共同参画企画からキャリアパスを学んでみませんか？ 女性研究者の皆さん、こんなキャリアパス、あんな取り組みがあるのを知っていますか？ 管理職の先生方、悩みを共有しませんか？

演 者： 糸 昭苑、若尾りか（理研・免疫アレルギー科学総研セ）、金井正美（杏林大・医）、荒木喜美（熊大・発生医学研セ）、松崎文雄（理研・発生・再生セ）、田賀哲也、伊藤 啓（東大・分生研）、塩満典子（内閣府・男女共同参画局）

2) 企業の女性研究者・技術者をとりまく環境

世話人：大住千栄子（味の素・ライフサイエンス研）、篠村知子（日立製作所・中央研）

趣 旨：

企業における男女共同参画の取り組みは、それぞれの企業の特徴を生かしながら様々な制度設計・運用がなされてきており、その制度を利用して多くの女性研究者・技術者が活躍しています。しかし、そのことは意外と知られていないのではないのでしょうか。そこで、分子生物学会に参加する異なる業界の企業の取り組みを、事例を交えてご紹介する場を企画しました。

また、これまで応用物理学会、男女共同参画学協会連絡会を中心に、アンケート活動を通じて企業における女性技術者・研究者の実態を明らかにし、共同参画を進めて来られました東芝電力社会システム社 渡辺美代子氏にご講演いただきます。

演 者： 岸本治郎（資生堂ライフサイエンスセ）、篠村知子、渡辺美代子（東芝電力社会システム社）、大住千栄子

◆各種学術集会、シンポジウム、講習会等のお知らせ

○千里ライフサイエンスセミナー「老化」

日 時：平成 17 年 11 月 22 日(火) 10:00～17:00

場 所：千里ライフサイエンスセンタービル 5階ライフホール

主 催：財団法人千里ライフサイエンス振興財団

着 眼 点：最近の老化研究の発展は目覚しく、インシュリン様シグナル、エネルギー代謝、酸化ストレス、カロリー制限など個別に議論されてきた老化・寿命の要因が一つの流れに収束しようとしている。また、新たな視点にたった脳の老化研究も進展しており、健康老化の実現を目指す老化・寿命研究の躍動を伝えたい。

コーディネータ：京都大学大学院医学研究科 教授 鍋島 陽一

プログラム：

1. はじめに
京都大学大学院医学研究科 教授 鍋島陽一
2. ストレスに対するクロマチン反応としての老化
京都大学大学院生命科学研究科 教授 石川冬木
3. 老化の分子メカニズムとその制御
東海大学医学部 教授 石井直明
4. 代謝・老化・寿命を制御するフォークヘッド FOXO ファミリーの機能調節
筑波大学大学院生命環境科学研究科 教授 深水昭吉
5. Klotho 蛋白が制御する新たな生体応答システム
京都大学大学院医学研究科 教授 鍋島陽一
6. 球状 β アミロイド凝集体「アミロスフェロイド」—形成から毒性の阻止まで
三菱化学生命科学研究所 東工大連携助教授 星美奈子
7. 脳の老化の分子メカニズム
東京都神経科学総合研究所 部門長 齊藤 実
8. おわりに
東海大学医学部 教授 石井直明

定 員：300名

参 加 費：会員（大学・官公庁職員、当財団の賛助会員）3,000円
非会員 5,000円、学生 1,000円

申込方法：氏名、勤務先、〒所在地、所属、電話および FAX 番号を明記の上、郵便、FAX または E-mail で下記宛お申し込み下さい。事務局より受付の通知を返送いたしますので、通知書に記載した振り込み先口座に参加費をお振り込み下さい。入金を確認後、通常2週間以内に領収書兼参加証をお届けいたします。

申 込 先：(財)千里ライフサイエンス振興財団 セミナー V2 係

〒560-0082 大阪府豊中市新千里東町1-4-2

千里ライフサイエンスセンタービル8階

TEL: 06-6873-2001 FAX: 06-6873-2002

E-mail: tnb-lsf@senri-lc.co.jp

URL: <http://www.senri-lc.co.jp>

○第 12 回日本時間生物学会学術大会

(<http://unit.aist.go.jp/brf/brf-ccb/JSC2005.html>)

会 期：平成 17 年 11 月 24 日(木)、25 日(金)

会 場：つくば国際会議場 (URL:<http://www.epochal.or.jp>)

大会会長：石田直理雄 (産総研・生物機能工学・生物時計、筑波大・生命環境連携大学院)

ワークショップ

1. 時計分子機構 (24 日、9:30 - 12:00)
オーガナイザー：岩崎秀雄 (早大)、程肇 (三菱生命研)
2. 生活習慣病と体内時計 (24 日、15:30 - 17:30)
オーガナイザー：前村浩二 (東大)、勢井宏義 (徳島大)
3. 投薬時刻と時計 (25 日、9:30 - 11:30)
オーガナイザー：矢野雅彦 (成人病センター)、大戸茂弘 (九大)
4. 睡眠リズムと発達 (25 日、14:30 - 17:00)
オーガナイザー：海老澤尚 (東大)、太田英伸 (バンダービルト大)

シンポジウム

- A. 体内時計のモデル動物 (24 日、15:30 - 17:30)
オーガナイザー：竹田真木生 (神戸大)、原田哲夫 (高知大)
- B. 体内時計の光周性 (25 日、14:30 - 17:00)
オーガナイザー：石浦正寛 (名大)、溝口剛 (筑波大)

特別講演

Steve Kay (Scripps, CA, USA)

教育講演

永井克也 (大阪大学蛋白研)

学会奨励賞受賞講演、ランチョンセミナー、一般口演、ポスター発表

懇親会

24 日、18:00 - 20:30

参加登録費：事前 5,000 円 (当日 6,000 円)

懇親会費：4,000 円 (当日 5,000 円) 学生：3,000 円 (当日 4,000 円)

○第 27 回宇宙ステーション利用計画ワークショップ

開催日時：平成 17 年 12 月 7 日(水) 10:00 ~ 17:00 (予定)

12 月 8 日(木) 10:00 ~ 17:30 (予定)

開催場所：江戸東京博物館 (〒130-0015 東京都墨田区横網 1-4-1)

アクセス：JR 総武線両国駅より徒歩 3 分

会合の内容及び目的：

国際宇宙ステーション (ISS) に参加している各国の状況および我が国の推進体制、現状を紹介する。これにより ISS を利用する研究者並びに国民の理解を深め、利用の拡大・多様化を目指す。また、国内外の環境の変化に伴う対応方策について議論を行い、ISS 利用の有効活用を図り今後の計画に反映する。

主催者名：独立行政法人 宇宙航空研究開発機構

共催者名：文部科学省（予定）

後援団体名：総務省（予定）

協賛団体名：日本分子生物学会 他

参加費：無料

詳細問い合わせ先：(財)宇宙環境利用推進センター

宇宙実験推進部 担当：佐藤

〒169-8624 東京都新宿区西早稲田 3-30-16

TEL: (03) 5273-2442 FAX: (03) 5273-0705

E-mail: sepd@jsup.or.jp

(参考)

●宇宙航空研究開発機構ホームページ：<http://www.jaxa.jp>

●(財)宇宙環境利用推進センターホームページ：<http://www.jsup.or.jp>

○愛知県心身障害者コロニー発達障害研究所公開シンポジウム 2005 「G蛋白質シグナルによる神経機能制御」

日時：2005年12月16日(金) 13:30 - 17:30

会場：愛知県心身障害者コロニー発達障害研究所 共同セミナー室

参加費：無料

プログラム：

13:30 開会の挨拶 仙波禮治（所長）

13:40 浅野富子（神経制御学部）

エンドセリンによる大脳発達制御

14:20 寒川賢治（国立循環器病センター研究所）

中枢性摂食調節ペプチド：グレリンとニューロメジン U

15:20 休憩

15:40 永田浩一（神経制御学部）

Rho/Rhotekin シグナルによる神経機能制御

16:20 根岸 学（京都大学大学院生命科学研究科）

神経軸索ガイダンス分子、セマフォリンの情報伝達機構

17:20 閉会の挨拶 細川昌則（副所長）

問合せ先：〒480-0392 春日井市神屋町 713-8 愛知県心身障害者コロニー
発達障害研究所 研究企画調整科 柏井明子

Tel: 0568-88-0811（内線 3503） Fax: 0568-88-0829

E-mail: akashiwai@inst-hsc.jp <http://www.pref.aichi.jp/hsc/inst>

○第14回武田科学振興財団生命科学シンポジウム開催ご案内

日時：2006年4月10日(月)～4月12日(水)

会場：京都ホテルオークラ 京都市中京区

組織委員：早石 修（大阪バイオサイエンス研究所） 山本尚三（京都女子大）

テーマ：The 50th Anniversary of Oxygenases: Advances and Reflections

「酸素添加酵素」の50年 —展望と回顧—

演 者：

D. P. Ballou (USA) A. R. Brash (USA) T. D. H. Bugg (UK) J. Cashman (USA)
M. J. Coon (USA) B. J. Day (USA) R. W. Estabrook (USA) J. T. Groves (USA)
R. P. Hausinger (USA) O. Hayaishi (Japan) K. Horiike (Japan)
K. Igarashi (Japan) S. Ito (Japan) T. Iyanagi (Japan) E. F. Johnson (USA)
P. J. Kemp (UK) H. Kühn (Germany) J. D. Lambeth (USA) J. Mallet (France)
B. S. S. Masters (USA) A. L. Mellor (USA) E. Niki (Japan) T. Nishino (Japan)
M. Noguchi (Japan) T. L. Poulos (USA) L. Que, Jr. (USA)
B. Samuelson (Sweden) S. Shibahara (Japan) H. Shoun (Japan)
S. G. Sligar (USA) W. L. Smith (USA) E. I. Solomon (USA)
M. Suematsu (Japan) H. Sumimoto (Japan) M. M. Taketo (Japan)
M. R. Waterman (USA) M. L. Whitelaw (Australia)
W. D. Woggon (Switzerland) T. Yoshida (Japan) T. Yoshimoto (Japan)

使用言語：英語

参加費：無料（宿泊費・交通費は自己負担）

参加申込：事務局宛お申し込み下さい。参加申込締切り 2006年3月31日(金)

ポスター発表公募：募集要項は事務局までご請求下さい。ポスター発表者の中から、助成金の候補者
を選出します。（1件50万円3件）

アブストラクト提出締切 2006年2月28日(火)

照会先・申込先：第14回武田科学振興財団生命科学シンポジウム 事務局

〒541-0047 大阪府中央区淡路町3-6-13 (株)コングレ内

Tel: (06) 6229-2555(代) Fax: (06) 6229-2556

E-mail: takedabio@congre.co.jp URL: <http://www.takeda-sci.com>

◆その他

○第4回「万有薬剤学奨励賞」候補者募集要項

1. 対象分野 製剤学・薬物動態学分野
2. 応募資格 国内の大学又はこれに準ずる研究機関、民間研究機関において研究活動に従事する者であって、2006年4月1日時点で、37歳以下の者。原則として、各種学会の進歩賞・奨励賞等の受賞者は選考の対象としない。
3. 表彰 第8回製剤研究フォーラム（2006年9月15日(金)開催予定）において、表彰状及び記念品を贈呈。
4. 選考 万有薬剤学奨励賞選考委員会で選考を行い、受賞者の決定は2006年3月末頃とする。第8回製剤研究フォーラム案内をもって報告する。
本賞の募集は原則として2年に一度実施する。
5. 応募方法 応募用紙（ホームページよりダウンロード）、研究概要（A4、1枚以内）、論文リスト、招待講演リスト、取得研究費リストをお送り下さい。
詳細はホームページでご確認下さい。
6. 応募期間 2006年2月5日(日) 必着
7. 応募・問合せ先 〒103-8416 東京都中央区日本橋本町2-2-3
（財）万有生命科学振興国際交流財団 万有薬剤学奨励賞 係
Tel: 03-5203-8190, Fax: 03-5203-8191 E-mail: banyushou@banyu-zaidan.or.jp
<http://www.banyu-zaidan.or.jp/symp/index.html>

○平成18年度に委託する研究開発課題の募集要項

（社）畜産技術協会では、平成18年度に委託する畜産技術に関連した研究開発課題を次のとおり募集（平成17年度内に募集、審査を実施）します。

1. 対象課題

「食料・農業・農村基本法」により国が定める畜産に関連する各種の計画や、目標に対応し、食料の自給率向上、安定供給及び農業の持続的発展、農村振興に資する次のような目的・目標の課題。

- 1) 畜産の生産性向上
- 2) 高品質・安全で特色ある畜産物の生産
- 3) 環境にやさしい畜産
- 4) ゆとりある安定的な畜産

2. 委託の金額及び期間

原則として、1課題につき2年間の総額で500万円以内（単年度の場合は250万円以内）とします。

委託契約・委託費の交付は単年度毎に行い、当協会内の「審査委員会」の中間評価及び課題担当者の自己評価により、評価し得る成果が得られる見込みのあると判定された場合には、次年度分の委託を継続するものといたします。

3. 委託の条件

- 1) 委託する課題の担当者の所属は、大学、独立行政法人試験研究機関、公立試験研究機関、民間企業、団体等としますが、委託契約等は、当協会と担当者が所属する機関の代表者との間で締結

します。

- 2) 委託した当該年度毎に、所定の報告書を当協会あてご提出いただきます。
- 3) 委託終了後学会誌等に、得られた成果を当協会からの支援によったことを記載した論文等により公表することといたします。なお、課題の性格によっては、その成果がマス・メディアに取り上げられる等により広報あるいは商品として発売されることを条件といたします。
- 4) 他の公的機関等が募集する同種のものへ応募している場合、あるいは既に外部から同一課題で委託を受けている場合は、委託できません。
- 5) この資金により特許権を取得し、当該特許により収益を得た場合は、その一部を納付していただくことがあります。
- 6) 1点20万円以上の備品を購入することはできません。20万円を超える金額の設備・機器等を使用する場合は、リース、レンタルにて取り扱うことといたします。

また、設備・機器の設置を目的とした研究開発課題については、委託の対象とはいたしません。

4. 応募方法

別紙様式により平成17年12月9日(金) [当協会必着] までに当協会研究開発第1部あて必ず郵便にてお申込み下さい (ファクス及び電子メールでの受付はいたしません)。

5. 応募課題の審査方法

当協会内部で一次評価を行った上、「審査委員会」の審査を経て選定します。選考は提出書類によりますが、必要に応じ現地調査等を行います。

審査結果は、平成18年3月上旬頃を目処に応募者本人あて直接ご連絡いたしますが、ご応募いただいた書類等の返却はいたしません。

6. 採択された場合の手続き等

採択することが内定した研究開発課題につきましては、当協会が定める委託等実施要領の規程により、平成17年度中に事業実施計画書のご提出をいただき、平成18年4月以降に委託契約の締結・委託費の交付等事務手続きを行うことといたしております。

採択課題名等は、原則として契約締結・委託費交付後に公表いたします。

【この応募要領に関するお問い合わせ先】

〒113-0034 東京都文京区湯島3-20-9

社団法人 畜産技術協会 研究開発第一部 担当 福川

Tel: 03-3836-2301 Fax: 03-3836-2302

E-mail: jlta_3b@k2.dion.ne.jp

ホームページアドレス: <http://jlta.lin.go.jp/>

日本分子生物学会 会報
年 3 回刊行

第 82 号 (2005 年 11 月)
発 行：日本分子生物学会
製 作：日本分子生物学会 事務局